

**亜熱帯島嶼科学研究拠点を担う若手研究者育成プログラム**  
(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：琉球大学（総括責任者：大城 肇）

**プロジェクトの概要**

本プロジェクトは、「南の発想と英知」を探究する学際新領域分野の新鋭研究者育成を図り、亜熱帯島嶼科学の世界的な拠点形成を目指すものである。「亜熱帯島嶼科学」の学術新領域を確立するには、学際研究を指向する優秀な研究者を集結させる新しい仕組みが必要である。そこで、従来の部局人事システムとは異なった日本版テニユアトラック制度を本学に導入し、国際公募によって国内外から新進気鋭の若手研究者を採用するシステムを構築する。国際評価委員を加えた国際基準に基づく教員評価・運営法を取り入れ、戦略的な次世代研究者の人材養成を行う。本プロジェクト実施実績に基づき、大学院を持つ研究教育大学として若手研究者を育成する教員人事制度を構築して地域性を活かした「亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構」を設置し、TT 若手はその機構に所属して育成する独立拠点方式を採り、機構の運営が円滑に行えるように、また、テニユア採用後の部局へのスムーズな移行をも配慮して運営委員会や支援組織を作り上げ、充実した外部評価委員会も設けている。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
B	b	a	b	b	b	a

総合評価：B（初期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組も見られる）

(2) 評価コメント

亜熱帯島嶼科学研究拠点という特徴ある研究拠点を形成することを目的として、その達成のためにテニユアトラック制（以下、「TT 制」という）を活用し、学部の枠を超えた研究組織が構築されているが、テニユア審査制度のあり方などの制度設計については早急に検討することが必要である。今後の TT 制を活用した人材養成システム改革についても、その方向性がまだ定まっておらず、早期に機関の戦略に合った TT 制の普及・定着を期待する。

- ・ **目標達成度**：地域性を活かした「亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構」を設置し、国際公募によってバランス良く採用したテニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）を当該機構に所属させ育成する独立拠点方式を採りながらも、テニユア採用後の部局への移行を配慮した支援組織を作り上げ、また、充実した外部評価委員会も設けていることは評価できる。しかし、テニユア審査の今後のあり方を含む詳細な制度設計や地域特性を配慮した新たな人材養成システムとしての TT 制の導入に向けて早急な検討が必要である。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：公募では国際的な広い人材を求め、国外を含む機関外研究者 7

名を加えた公正かつ透明性の高い選考により、外国籍研究者、女性研究者を含む多様な人材が確保されたことは評価できる。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：亜熱帯島嶼科学研究拠点を形成し、特化型研究、組織拡充、研究活性化及び TT 若手の育成を一体的に成し遂げるといった意欲的な構想のもと、プロジェクトを推進したことは評価できる。しかし、昇任なしのテニユア職採用やテニユア教員になった際の受入れ部局との採用基準が異なることなどの課題を踏まえた制度設計上の改善が必要である。
- **制度設計に対するマネジメント**：若手研究者養成のあり方について機関内の議論が高まり、また、科学者倫理問題を踏まえた倫理教育・指導のあり方について学内で実践されるようになったことは評価できるが、総括責任者のリーダーシップを活かし、本プロジェクトの成果を活用した人材養成システムの構築についてのマネジメントが必要である。
- **実施期間終了後における取組**：亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構は、新たな戦略的研究組織として存続させ、機関のもつ研究の強みをアピールできるような研究課題に絞った時限的なプロジェクトの受け皿となり、トップレベルの若手研究者育成組織とすることが計画されているが、本プロジェクトで実施してきた TT 制の経験を活かした制度設計を行うことが必要である。
- **中間評価の反映**：メンターの科学者倫理問題に端を発し、中間評価で指摘されたコメントを機に、TT 若手の育成制度の見直し、メンター会議の創設などの制度の改革や意識の改革を推進している。また、多くの運営委員会や外部委員を含む評価委員会などが機能することにより、人材育成に適したシステムとなったことは、中間評価結果を適切に反映したものと評価できる。